

巻 頭 言

教育相談・支援総合センターは臨床心理士及び公認心理師を目指す大学院生や既に資格を取得した修了生の臨床教育と同時に、支援を求める地域の方々を対象にした「心理臨床支援」と「発達支援」を継続的に提供していることは周知の事だと思います。

現在は、さまざまな問題を抱える幼児・児童生徒らと、その養育者への支援と内容は多岐に渡っております。特に学校現場における様々な心の課題に対応するためには多くのケーススタディーを汎用的に活用することが必要です。そのためにはエビデンス（根拠）となるデータ、そしてそれらを比較検討することで客観的な知見が得られます。この知見を発表する場が研究論集です。インクルーシブ教育、ノーマライゼーション、インテグレーション教育、ユニバーサルデザイン、アコモデーション、アダプテーション等、色んな教育専門用語がありますがそれらをデータと理論で学術的に裏付けし、さらに教育現場で誰もがその知見を正しく利用できるよう一般化することが必要不可欠と考えます。多くの実践研究、実証研究は、論文として公表されて初めて世界に発信され世の中に貢献できるものと思います。

教育支援のあり方は日進月歩で発展しています。つまり、世の中には最新の支援方法と古典的な支援方法が混在しています。その時の支援にどの方法が適しているかはケース・バイ・ケースと言えますが、最新の支援方法に接することができないという事態は、支援の質を損ずるだけでなく、それどころか教育支援全体の信用を損ねる可能性もあります。地域の国立大学として常に新しい知見や研修方法を公表し情報をアップデートしていくことは、支援の幅や可能性を広げ、地域の学校教育や市民生活に資することであると考えます。

今回刊行される研究論集が多くの方々の研究や実践の刺激となり、地域を越えて教育のネットワークのハブの一つとなるよう機能していけば幸いだと思います。

横浜国立大学
教育学部長 木村昌彦